

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290100266		
法人名	株式会社 ひょうま		
事業所名	グループホーム ひなたぼっこ・西川津①		
所在地	〒690-0823 島根県松江市西川津町2663番地2		
自己評価作成日	2019年11月7日	評価結果市町村受理日	令和2年1月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 コスモブレイン		
所在地	松江市上乃木7丁目9番16号		
訪問調査日	平成元年11月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①利用者に居心地の良い空間を提供できるように、常に利用者の心の声に耳を傾けるように努めている。家庭的な雰囲気の中で、食事の準備や洗濯物たたみ等、利用者が家族の一員としての役割や楽しさを持って生活できるように支援している。また、体力維持や健康のため、体操の時間も設けている。

②生活歴や趣味が継続して実施できるように、社会資源を活用し、住み慣れた地域で馴染みの人達との交流を大切にしている。また、地域との関係作りに取り組んでいる。

③環境が与えるストレスの軽減や気分転換のため、日々の買い物や外食へ出かけたり、利用者の希望に沿っての外支援助にに取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員体制が整わない時期がしばらく続いたようだが、この9月から新人職員が入り安定している。しかし管理者は12月一杯で交替が決まり、現在業務引継ぎ中。不安定な体制の中でも、利用者は比較的軽度で安定しており、家事中心の作業を日課とし、ホールからは元気な歌声や体操のかけ声が聞こえていた。管理者の男性を除けば全員が女性で、ホールには花が飾られ手作りの物が暖かみを出して、アットホームな感じが心地良い。外に出られない時期にはアニマルセラピーを取り入れるなど専門施設としての前向きな取り組みもある。施設周辺は住宅地であり家族が多く、関わりを持つことは難しいようだが、公共施設等を積極的に利用するなどして関わりを深めていただきたい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム内の常時目にする場所に理念を掲示し、職員間で共有し理念に基づき、利用者がその人らしく過ごせるように努めている。	グループ全体の理念を継続。新規職員の採用が続いた為、研修マニュアルに添って現職員が交替で指導にあたり、理念が共有できるように話をしている。毎月の会議でも取り上げ意識統一に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームでの行事に地域の方々への参加の呼びかけたり、地域の行事にできる限り参加をしたり、交流を深めるよう努めている。	準会員という形で自治会に加入しており、回覧板を通して地区の情報を得ると共に施設の行事案内等の情報も配信している。中学生の職場体験や銭太鼓、コーラス等ボランティアの受け入れも積極的に行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の理解、支援を、内部、外部研修に参加し、実践に活かし、運営推進会議にて事例をあげながら報告を行い、話し合いの場を設けている。 中学生の福祉体験の受け入れも行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて、ホームでの日々の取り組み状況の報告を行い、その場でいただいた意見や助言は、サービス向上や現場で活かしている。	利用者と家族関係者、開所から関わりのある民生委員に市の担当の参加で定期に開催。町内会長は毎年変わるため、働きかけてはいるが参加は難しい状況。施設の状況報告後、意見交換をしているが、議題等内容の検討の必要性を感じている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加いただき、取り組み状況や、ヒヤリハットや事故報告書などを伝え、意見交換や助言をいただいている。	市の担当課からはFAXでの配信が主で関わりは多くはないが、運営推進会議には包括と交替で参加があり意見をj得ている。包括からは空き状況の問い合わせや、認定調査でも関わりあり、生活保護担当には状況報告を継続しており、良い関係が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月毎の身体拘束適正化委員会(身体拘束防止研修・事例検討会)を設けており、職員間での理解を深めている。出入口は常に開放しており、見守りと寄り添うケアを行い身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員体制が整わなかった時期に玄関の施錠をしていたが現在はオープンになっている。身体拘束適正化委員会を定期に開催し事例を上げて検討したり内外の研修にも参加し意識を高めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について、年2回の内部研修や、外部研修に参加し、職員間で学ぶ機会を持ち、自己の振り返りや職員がストレスをため込まないよう日々のミーティングで話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護推進員や、権利擁護の外部研修に参加した職員が、伝達研修を行っている。活用できるようミーティングや職員会議にて話し合いの場を設け、学ぶ機会をもっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、締結、解約、改定等が必要な時は、契約書に基づき、丁寧な説明を行い、理解、納得の上で契約している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議への参加時や、面会時には、ご家族としっかりコミュニケーションを図り、意見、要望等を伺っている。	年1回家族会を開催しており今年度は3月に予定。行事の報告に食事会を行い意見交換に繋げている。毎月行事等の写真に直筆のメッセージも入れた便りを送り意見を得るようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々のミーティングや連絡ノート、職員会議で話し合う場を設けている。	以前は年2回個人面談をしていたが、職員体制が整わず実施できていなかった。管理者も変わるため今後は予定している。新人職員も多い為毎日午後にはミーティングの時間を摂り話し合いを続けている。	職員も変わり管理者も変わるため、新たな関係を作ることで、意見が反映できるよう取り組んでいただきたい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が向上心を持って働けるように、資格取得の支援や、残業にならないように定時終業を促しており、職員間で意見が言い合える環境づくりにも配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修を受ける機会があり、伝達研修や定期的な内部研修を行い、職員間での共有により、知識、意欲、技術の向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修や市内のグループホーム部会に参加し、情報交換や交流の場を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の訪問面談にて、現在の生活状況を把握するように努め、入居時のご本人の不安を少しでも軽減するよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談にて、悩みや不安を抱えているご家族を理解し、最適な支援が提供できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の相談に応じ、最適なサービスを受けられるように支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者の長年培ってきた、経験や知識を、生活の中で活かしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に行事の参加を呼びかけ、ご本人と楽しい時間を過ごしていただけるようにしており、ご家族の面会時に普段の様子を伝え、話し合う場を設けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人が大切にしてきた関係性を大事にし、親戚や知人の面会等、支援している。	この地域で最も馴染みのある行事としてちまき作りは盛大に行っている。地域からの参加者も多くあり、作業しながらの関わりが効果を高めている。公民館開催の喫茶にもできるだけ参加するようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員間で情報を共有し、ご利用者同士の関係性をしっかり把握し、支え合えるような支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も必要に応じて、ご家族の相談にのる等の支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の生活の様子や行動、会話の中から本人の意向や希望を読み取りながら、職員間で情報の共有を図り、検討の場を設けている。	全員女性で家事を中心にした作業に関わりたい思いが強くトラブルになる場合もあるが、できる事を見つけ満足感や達成感を感じられるように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の暮らしや生活環境、以前のサービス利用の内容、経過について、ご本人、ご家族より丁寧に話を伺い、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの1日の過ごし方や体力、能力を観察しながら、できる作業や役割を考え、ミーティングやカンファレンス等にて職員間で、情報交換を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の記録や、ご本人、ご家族、医療関係者との話を基に、カンファレンスを行い、ご本人の現状に適したプランの作成に努めている。	アセスメントを毎月行い、モニタリングも1か月ごとにまとめ評価を行い、プランも6か月ごとに更新している。家族の面会に合わせて担当者会議も開催し意見が反映できるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、日々行っているケアの実践及びその結果、その中で新たに気づいた事や工夫したことを個別に記録し、職員間で情報の共有することで、今後のより良い介護実践、介護計画に役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族のその時々状況に応じて、さまざまなニーズに細やかに対応し、柔軟な支援やサービスの提供に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	かかりつけの病院受診や行きつけの美容院、親戚、知人の面会により馴染みの関係性を大切にすことにより、安心して暮らせるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の継続を希望される方は、ご家族の協力のもとで受診される。その他の方は、契約医の往診で対応している。また、必要に応じ受診介助を行っている。	かかりつけ医を継続することも協力病院に変更することも可能で入所時に判断するようになっている。協力病院からは月2回の往診があり、夜間休日等緊急時の対応も可能で安心に繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師により、健康管理や処置等、医療面での相談、助言を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関との情報交換、相談に努めており、入退院時も安心してすぐに対応できるような関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期については、入居時に説明をし、協力病院の利用について話し合いを行っている。状況に応じて主治医、ご家族の話し合いの場をもてるよう支援をしている。	以前は看取りを行ったこともあったが、協力病院との関係が充実し、バックアップ体制が整っていることもあり、今後は看取りは行わない意向としている。看取りを希望していた家族も有ったがドクターより説明をしてもらい理解を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年2回の消防署や応急手当普及員による応急手当講習及び年1回の事故防止対策・急変時対応の内部研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署指導による両ユニット合同の避難訓練、防火避難訓練を年1回。各ユニットでも年1回、ご利用者を含め、避難訓練を行っている。	年2回の総合防災訓練に加え、この地域が浸水想定区域になっていることもあり風水害を想定した訓練も実施している。避難場所が適切かどうか行政に投げかけており、災害を想定内のこととして意識を高めるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの性格を把握し、人格を尊重しながらの声掛け、対応を行っている。	排泄時や入浴時の声かけや入室時のドアノックなどケアの基本として特に注意するように話している。接遇研修にも参加しプライバシーの確保について繰り返し意識を改めるようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から自分の思いを口にしやすいような関係性を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活のペースを把握し、その時々に応じた支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望に応じて美容院への外出や必要な物品等の購入支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の買い物に同行していただき、献立を一緒に考えたり、旬の食材を選んだりしている。	調理担当の職員を中心にできる作業は利用者と一緒に行い、食材の買い物にも1日置きに交替ででかけ食事を楽しめるよう全員で関わっている。食事前には献立を発表し、口腔体操に歌を歌い、職員が間に入り楽しい雰囲気作りにも配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量を把握してその人に合わせた食事量・食事形態で提供している。水分量は食事・お茶時に声かけを行い、必要な水分量が摂取できるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立している方は見守りと声かけで対応し、必要に応じて介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、プライバシーに配慮し、個々にあった自立にむけた支援を心掛けている。	介護度の軽い方が多く、排泄面での介助は少ないが一人ひとりの排泄パターンを確認するようにしている。オムツ使用者には時間を見て交換したり、パットも昼と夜とで使い分けるなど個々に合わせるようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を確認し、一人ひとりの排泄の習慣に応じて、誘導、水分量、運動への働きかけを行い、予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調や気分、状況に応じて、シャワー浴での対応をせざるを得ない場合もあるが、できる限り、ご本人の希望に沿った支援をしている。	皮膚が弱くシャワー浴を希望する方や入浴嫌いでシャワー浴がやっとな方もあり個々に合わせ週2回は入浴できるようにしている。今までの習慣に近づけるように夕方からの時間に入れるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	習慣や体調に配慮し、一人ひとりにあった休息ができるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	用法や用量について理解し、服薬後の状態の観察、変化があれば主治医に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴を把握し、日々の生活、活動から、ご本人の役割をみつけ、自立に向かっての支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望に沿うよう支援をし、季節を感じられる場所へのドライブ、外食、買い物、散歩、地域の行事への参加等、外出の機会を持つように努めている。	1日置きに交替で食材の買い物に出かけている。裏のテラスや玄関先でお茶をしたり、春や秋の季節の良い時には四季を感じられるように外出行事を計画している。個人的にも昼食外出や受診を兼ねた外出などを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望の商品があれば、ホームで立て替えて購入している。お金を持つことで安心される方もおられるので、所持してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやりとりはできてないが、毎月出しているお便りにはご本人からのメッセージを記入していただいている。電話があれば、ご本人にお繋ぎしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール、廊下等に季節を感じられるように、飾りつけをしたり、写真を貼っている。 又、その日の温度、湿度をなるべく一定に保てるように調整している。	2つのユニットが左右対称に建ておりの裏庭がテラスと畑になっている。窓から陽が入り明るさもあり、住宅地で車等の騒音がほとんど無く、ホールはくつろげる適度な広さもある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	窓際に置いてあるソファやテラスで天気の良い日には、ひなたぼっこをしたり、談笑したりと自由に過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具やテレビ等、持ち込んでいただき、好みに合わせた環境づくりを心掛けている。	入所時に新しい物ばかりだと落ち付かないので、できるだけ今まで使っていた物と話をしているが、新品に替えて入所するケースが多くなってきている。大き目のクローゼットがあるのであまり多くのものが置かれていない。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、居室内に手すりを設置したり、居室入り口に表札を付け、ご利用者それぞれが認識でき、安全に移動できるようにしている。		